

こども通信

塚田こども医院

小児科・アレルギー科
漢方内科
.....
上越市栄町 2-2-25
TEL 025-544-7777(代)
025-544-7779(保育室)
FAX 025-544-8456
.....

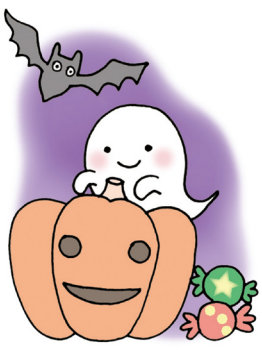
ホームページ
www.kodomo-
iin.com



やっと秋らしさを感じるようになってきました。異常な猛暑が長期間・今年だけですめばいいのだけれど、また来年の夏が心配です。

というより、次の冬はどうなるのでしょうか。地球が人間に拒絶反応を起しているようにです。穏やかに生きていたいものです。

* * *
日本の芸能界でおぞましいことがおきて



さらに、これが日本での芸能活動をするうえでシステム化されていたのも大問題です。被害を受けることが、実質的に活動の条件となり、会社はそれを知りながら働かせていました。テレビなどのメディアも、見て見ぬふりをして、タレント起用を続けてきました。

性加害。それも数十年という長い間行われ、被害にあった人たちは数千人とも数千人も。

単なるイタズラでもなく、逸脱した性癖というレベルでもありません。明らかな犯罪行為です。

しかもそれが青少年に向けられていたわけで、際立った重大さ、悪質

さがあります。成長期に受ける被害は、心の成長を阻害し、一生涯消えることのない傷を残してしまします。子どもたちの人権を守るどころか、人格を否定し、崩壊させかねない卑劣な行いが行われていました。

先輩タレントも、自分自身が被害にあっていたり、実態を知りながら、後輩を守ることなく、同じ被害を受けさせていました。被害者であると同時に加害者でもある・・・かわいそ

感染症情報

新型コロナウイルス感染症の第9波と思われる流行が夏場におきていましたが、9月中旬から勢いが収まり、収束の見通しが出てきました。しかし完全に終息することは考えにくく、実際に学級閉鎖などもおきています。引き続き、十分に注意してください。

インフルエンザの患者発生が増えてきました。全国的に流行期に入っているとのこと。当地でもすでに流行が始まっています。例年は冬場に流行する感染症ですが、夏場から流行が始まるのは珍しいです。今後流行が拡大しないか心配です。注意をお願いします。

RSウイルス感染症やヒトメタウイルス感染症の発生は少なくなりました。

ヘルパンギーナや手足口病の発生はほぼなくなりました。

プール熱(アデノウイルスによる咽頭結膜熱)の患者が少しあります。全国的には大きな流行になってきているということで、今後の動向が心配です。伝染力が強いので、気をつけてください。

感染性胃腸炎の発生は今では少数ですが、季節的には今後増加してくるかもしれません。

溶連菌感染症も時々発生があります。

10月からインフルエンザ予防接種が始まります。ワクチン接種によりかかりにくくなり、またかかった時の重症化を予防する効果が期待されます。ぜひ受けていただきますようお願いします。

うですが、そうです。誰も止めることができなかった性加害。「主犯」はすでに故人ですが、決してもう二度と起こしてはいけません。「犯人」の名前を冠した会社がそのまま存続することがどれくらいおかしいことかということも考えてみてください。

今月の予定

院長・副院長出務

- たにはま保育園健診 11日
- 谷浜小学校就学前健診 11日
- 聖母マリアこども園健診 25日
- 上越市夜間診療所勤務 18日
- 上越有線放送「健康ライフ」17日
- FM上越「Dr. ジローのこども健康相談」
毎週木曜午後1:20頃～(76.1MHz)

感染症情報(毎週)

- FM上越: 木曜午後1:35頃～
- 上越有線放送: 月曜午後6時～(番組内)
- 医院ホームページ内

事故予防

電子レンジ加熱に注意

先日、小児科学会から電子レンジ使用により重大な事故があり、注意喚起がありました。

生後9か月の赤ちゃんに、冷凍してあったお粥を電子レンジで加熱し、食べさせた時、喉頭熱傷を起こしてしまったというものです。喉頭は声帯がある部分で、気道という空気の通り道で一番細いところです。喉頭の粘膜が熱傷をおこし、呼吸困難になり、救急搬送。一時は気道が閉塞し、専門医による処置と呼吸管理が行われ、ようやく救命されたという事例でした。

母がお粥を電子レンジで加熱した際も、特に加熱し過ぎたわけではないようです。容器を触り、熱過ぎないことを確認した上で、皿にうつし、サジで少しずつ赤ちゃんに食べさせていたけれど、急に咳き込んで泣き出しましたが、落ちていたので全量摂取し、食事は終わり。

何ごともなく就寝したけれど、夜中に急に泣き出し、息が吸えない状

態（吸気性喘鳴）が出現し、救急搬送になりました。

処置中に行ったファイバースコープの所見では、喉頭蓋（喉の入り口の蓋）が赤く腫れ上がり、この部分が熱傷を受けていたことが判明しました。

この子は高度医療により救命でき、その後普通に食事が摂れるようになり、無事に退院することができました。しかし手当てが遅ければ重大な結果になっていた可能性があります。

今回はお粥の加熱に電子レンジを用いたことが原因でした。全体的には加熱し過ぎてはいないけれど、加熱にムラがあり、ちょうど熱いお粥が喉の入り口にくっついてしまったと考えられます。そこから数時間して、熱傷部位が腫れて、気道を塞いでしまいました。

もし仮に、熱傷部位が口の中で止まっていたら、しみるので食べにくかったり、嫌な顔をするくらいですんだことでしょう。数日で自然に治り、受診する必要もないくらいだったはず（受診しても特に薬はあ

りませんが）。その意味では、熱傷を起こした部位が悪かったと言えま

す。しかし、そもそも電子レンジによる加熱は、均等に熱くなるわけではなく、食べ物の場合には熱傷の危険があることを知っておく必要があります。

電子レンジはとても便利なので、どの家庭でも使っていることでしょう。電気からマイクロ波を作り、それを食品に照射し、水分子を誘電加熱します。この時に、食品全体が均等に加熱されるわけではありません。水分量が多いと強く加熱されたり（逆もあるようです）、塩分量も関係していたり。

実際に食べ物を加熱して、外だけ熱くなったけれど中がまだ凍っていたり、ところどころ冷たい所や熱い所が残っているのは、皆さんも経験していると思います。

こういったことから、電子レンジによる熱傷事故の予防のためにいくつかのことを注意してください。（1）高出力では加熱し過ぎになりやすいので、低出力で使用する

（2）ムラが発生するので、よくかき混ぜてから食する

（3）子どもに与える前に、大人が実際に食べてみて温度を確認する
こういったことを丁寧に行って、事故にならないように注意してください。

●当院での事故例

処置の必要から、手を温めるために、電子レンジで濡れたタオルを加熱し、使っていたことがあります。ある時、そのタオルを外したら、皮膚がとても赤くなってしまいました（1度の皮膚熱傷）。その場でクーリングし、軟膏処置を行い、跡を残すこともなく軽快しましたが、強い言葉で「医療事故」です。

その反省から、電子レンジの使用を禁止し、必要な際はお湯でタオルを温め、それを実際に手で触り、熱すぎないことを確認するようにしました。

電子レンジは便利だけれど、気をつけてないと思いがけない事故を起こすことがあることを痛快した事例でした。